



第372号
「がんばろう、日本！」
国民協議会
機関紙

発行所 「がんばろう、日本！」
国民協議会
発行人 戸田政康
編集人 石津美知子
http://www.ganbarou-nippon.ne.jp
(東京事務所)
東京都千代田区九段北4-3-16
サンライン第14ビル6階 〒102-0073
TEL 03(5215)1330
FAX 03(5215)1333
(発行所)
東京都東大和市南街2-17-16
パピルス会館 〒207-0014
TEL 042(566)2950(代)
FAX 042(566)2949
〈郵便振替〉00160-9-77459

主権在民・市民自治のファクターから、 鳩山政権の「迷走」と小沢民主党の「逆走」 の本質をとらえ、参院選を「仕分け」の ステツプとしよう

クリティカル・ジャンクシオン 「失われた20年」からの脱出口は 見えてきたか

「クリティカル・ジャンクシオン」。歴史的に大きな転換は、時間をかけて可視化され、制度化されていく。さまざまな選択肢が検討され、試行錯誤を繰り返すプロセスのなから、次の時代の方向性が形成される。そうした試行錯誤の集積がついに臨界質量を超える寸前の局面を、クリティカル・ジャンクシオンというそうだ。それを超えれば、変化は不可逆的なものとなる。

リーマンショック後の世界的不況からいかに脱出するか、それはいまだ各国が直面する難問であるが、ひとつだけはっきりしていることがある。それはリーマンショックを抜けた後の世界は、もはやこれまでとは大きく違つていふことだ。

長にはもはやない。今年には新興国のGDPが先進国をわずかであるが上回ると見られている。生産と消費の中心が近代史上はじめて、先進国から新興国へと移りつつある。

産業資本財から、人間が持つ「情報」「知恵」や「知恵」を生み出すための文化・コミュニケーション・やる気・創造性といった人間そのものの価値、そしてそれらを創り出す関係性となつていく(社会関係資本)。(注 諸富・京都大学教授の講演参照 「日本再生」三七二号)

朝鮮戦争(1950-1953)は、米ソ対立が冷戦体制として制度化されていく際の歴史過程における「クリティカル・ジャンクシオン」のひとつと位置づけられる。世界的な金融危機後の今日、百年単位の資本主義の枠組み転換(二十世紀型資本主義から二十一世紀型資本主義へ)におけるクリティカル・ジャンクシオンと位置づけられるだろう。

このなかで「失われた二十年」から、いかに脱出していくか。それがわれわれの課題である。この間に「橋本改革」「小泉改革」が試みられたが、いずれも肝心の問題は先送りされてきた。その根本的な原因は、国民に信頼されるべき政権交代可能な政党政治の未確立である。政治の力強さは、国民の信頼に由来する。「われわれが選挙で選んだ政権(政府)であり、政党だ」といふる政権選択選挙なしに、大きな改革を可能にする政治の力強さは生まれな。

憲政史上はじめての選挙による政権交代をなしとげた後に直面しているのは、これをクリテ

への

東京都東大和市南街2-17-16
(発行所)
パピルス会館 〒207-0014
TEL 042(566)2950(代)
FAX 042(566)2949
〈郵便振替〉00160-9-77459
「かんぱろう、日本!」国民協議会
ゆうちょ銀行 019店 当座0077459

1部 300円
半年2,000円
一年3,500円
定期購読

今号の紙面

2-3面 一灯照隅(地方議員のコラム)
4-5面 社会起業フォーラム
6-9面 囲む会「鳩山政権の半年」
五十嵐文彦・衆院議員
インタビュー
9-11面 柳田・佐久市長・松本・和光市長
12-13面 「東アジアのなかの中国」
朱建榮・東洋学園大学教授

イカル・ジャンクションとして政権交代を当たり前の前提とする健全な政党政治の確立という次のステージへと進むことである。これはもはや、従来の政治の延長線上にイメージできるものではない。

「戦後政治では、『誰が政治をやっても変わらない』という牢固とした感覚が、多くの国民を支配してきた。しかし、小泉政権で『トップによって政治は変わる』ということがはっきりし、遂に、政権交代によって政策と

パブリックな存在としての政党の確立なくして、政権交代を意味のあるものとして定着させることはできない

「鳩山政権の迷走・小沢民主党の逆走」の本質はどこにあるか

政権交代後の日本政治の課題を、政権交代前の「常識」(官僚内閣制の常識、総理のクビのすげ替えはあっても政権党を選挙で選ぶことはできないetc)からとらえることはできない。政権交代によって、政治と国民の関係は、それ以前よりもはるかに緊張に満ちたものとなった。ここでの混乱や迷走を、「選挙の結果―国民の選択がどうあろうと、政策や政治は変わらない」という政権交代前の「常識」からとらえることはできない。

「政権公約」(マニフェスト)への言及なしに政治や政策について語ることはほとんど不可能になり、「政治主導」の担い手である政党のあり方に厳しい視線

たものを追認しているだけでもいいかもしれないが、「あれか、これか」を選択しなければならぬ時代には、支持率の変動に耐えながら長期的な視点から政策を立案し、合意形成を図ることのできるパブリックな存在としての政党が不可欠なのだ。

鳩山政権の迷走と小沢民主党の逆走という「目へらまし」にあいつつも、有権者の視線は「政党は選挙ができればよい」という時代から、その統治能力へと焦点が移りつつある。

鳩山内閣の支持率低下が止まらない一方で、自民党の支持率も低迷したまま。福田、麻生政権の時には、有権者には「政権交代」ということとおきのカードがあったが、今は選択肢を失って戸惑っている、というのが大新聞の世論調査の解説である。たしかに「投票と陳情だけ」の有権者なら、ここから前へは進めない。しかし有権者は「政党のありよう」に視線を合わせつつある。「参院選で民主党が単独過半数を占めたほうがよい」が23%に対して、「占めないほうがよい」が65%。鳩山内閣への支持が25%ということ考え合わせると(朝日4/19)、小沢民主党の逆走への「ノー」の意思はかなり明確だといえる。

参院選では民主党以外の全政党は、参院での民主党単独過半数阻止で一致している。問題はそれによって政党政治の液状化を促進するのかが、政党を鍛え直す一歩をさらに進めるのか、そこを任分ける基準(政党のあり方を問う)を、有権者がしかと持つことにある。

また「民主党や自民党に對抗できる、大きな政党ができたほうがよい」が52%、そうは思わないが37%となっている。ここでいう政党とは、「国会議員五人以上の組織」としか認識されない、選挙互助会のことではない。それは、次々にできる「新党」

とやらがブームにさえならぬことにも明らかだ。有権者は、仕分けの基準を持つ必要がある。

「政権交代は政治家と政党を鍛え直す重要な局面であり、そこを乗り越えない限り、日本政治の新たな展望は開けない。すなわち、昨年の総選挙で国民は政治家と政党の鍛え直しを選択したのである。国民も、政党政治家も、この初心を忘れてはならない」(21世紀臨調 前出)

「支持率の変動に耐えながら長期的な視点から政策を立案し、合意形成を図ることのできるパブリックな存在としての政党」へいかに鍛え直していくかあるいはそこへ脱皮するためのステージをどう準備するか。問題はこう設定されている。ここから、鳩山政権の迷走と小沢民主党の逆走を、冷徹に仕分けしていくべきである。

内閣支持率が低下の一途をたどる一方で、国会審議の中継録画へのアクセスは前年の一・五倍となっているという。ネット上では「マスゴミが報道しないからだろ」「バラエティより面白いからな」「国会審議を見るときに政治報道が適当かよく分かる」と、政治やマスゴミに対する不信感があらわになっている。また、「お前の運転だと怖いから寝てらんねえーよ!」国民は皆、「こんな感じじゃwww」という書き込みには「うまいwww」「わかりやすい」と称賛の声が寄せられているとのこと(weblog 4/26)。

選択肢を失って戸惑っている有権者はかりではないことを、永田町もマスコミもしかと知るべきだろう。

□日程のお知らせ□

- ◆第95回定例講演会 調整中
- ◆「日本再生」読者会 5月9日(日)午前10時より 「がんばろう、日本！」国民協議会事務所
- ◆北九州「日本再生」読者会(会費 500円) 5月22日(土)午後2時より 小倉商工会館
- ◆大阪「日本再生」読者会(会費 800円) 5月12日(水)午後7時より 大阪研修センター・十三
- ◆京都・青年学生読者会(会費 200円) 5月18日(火)午後7時より 同志社・寒梅館

**** 以下は申し込みが必要 ****

- ◆第85回 東京・戸田代表を囲む会 5月11日(火)18時30分より ゲストスピーカー 浅尾慶一郎・衆院議員 山内康一・衆院議員 「みんなの党は、参院選をかく戦う」
- ◆第86回 東京・戸田代表を囲む会 5月26日(水)18時30分より ゲストスピーカー 小川淳也・衆院議員、総務大臣政務官 「鳩山政権の八ヶ月に思うこと」
- ◆第87回 東京・戸田代表を囲む会 6月9日(水)18時30分より ゲストスピーカー 森山浩行・衆院議員、柿沢未途・衆院議員 藤田憲彦・衆院議員 「30代、一年生議員が語る“政権交代から九ヶ月”」
- ◆第88回 東京・戸田代表を囲む会 6月17日(木)18時30分より ゲストスピーカー 川村秀三郎・衆院議員、元林野庁長官 「宮崎発、元林野庁長官の目から見た鳩山政権」

*いずれも 参加費 同人2000円 購読会員 3000円(お弁当付) 会場 「がんばろう、日本！」国民協議会事務所

政権交代を意味のあるものとして定着させ、次期総選挙をより本格的な政権選択選挙へと深化させるインフラ整備のために、なにをなすべきか

1面から続く

政権交代を意味のあるものとして定着させ、次期総選挙をより本格的な政権選択選挙とするために、さらに一歩マニフェストと政党を深化させる。そのインフラ整備において必要なことは、第一に市民自治・住民自治の発展―決定過程への市民参加であり、第二に政策観・政策思想の軸による政党の規律化、組織化である。

二十二年度予算が成立し、鳩山政権は選挙で掲げたマニフェストの重点八項目のうち、ガソリン税暫定税率廃止を除く七項目については、ほぼ実現した。また公約政策全体の二割がほぼ達成され、着手した政策は85%に達したという評価もできる(毎日4/19)。総選挙での有権者の選択を起点として、組閣―政

策決定―政策実施というサイクルが、ようやく緒についたといえる。だからこそ、ここからさらに実績評価・検証―総選挙という責任あるマニフェストサイクルを確立することによって、次期総選挙の基盤整備をしていかなければならない。

同時にここでは、マニフェストの作成過程および政策観・政策思想の軸による政党の規律化、組織化が不可欠となる。

「マニフェストは」政党という組織の社会的存在感や内部的凝集性を計る格好のメルクマールである。「バラバラ感」しかない政党にはこうした作業(党内の合意形成と多くの有権者との応答性・討論という試練/引用者)はほとんど不可能であり、党大会を何日も開いてマニフェ

ストを語っていくといったことはおよそ考えられないに違いない。しかし、マニフェストは政党が政権を掌握した場合に一体として行動することを支える基本指針であるのみならず、政党が組織として前進するきっかけになる(21世紀臨調 前出)

鳩山政権の迷走の一端は、マニフェストが開かれた党内の論議を十分に経て合意形成されたものではない、ということころにもある(役所の出してきた政策リストをまとめただけ、というものははるかにマニフェストはあるが、マニフェストサイクルを前にまわすためには、来る参院選挙にむけて、民主党には昨年のマニフェストの検証評価が求められるが、ここで必要なのは、あれこれの政策項目の見直し以上に、開かれた党内論議を通じた政策観・政策思想の軸の方向性の一致性である。たとえば「コンクリートから人へ」というのは、単なる歳出の付け替えなのか、それとも(先に述べたような二十一世紀型資本主義への転換に伴う)構造的な資

源配分の枠組み転換なのか。

野党自民党に求められるのは当然、次期総選挙マニフェストの準備版である。これなしに政権奪取への一歩は始まらない。

そして与野党ともに、こうしたマニフェストの作成・検証過程が、党員はもちろん一般有権者の幅広い参加、双方向の討議によって組織化されることが不可欠だ。政策は政治家個人の信念ではないし、理念を語ればすむというものでもない。現代の政策形成過程は、複雑に変化する内外情勢のなかで「知と情報を総結集する」という営みであるが、同時に優れた研究者や専門家と政党・政治家が決定的に違つのは、「支持率の変動に耐えながら長期的な視点から政策を立案し、合意形成を図ることのできるパブリックな存在」である点だ。この両側面から政党を鍛えることが、マニフェストの作成・検証過程にはかならない。二十二年度予算では戦後初めて、国債発行額が税収を上回った。これは一過性のことではなく、平成元年以降一貫して続

いて... ない... だ... こと... ま... 義... 税... 歳... 持... は... も... て... 二... の... 性... こ... 政... 内... 外... 情... 勢... の... な... か... で... 「... 知... と... 情... 報... を... 総... 結... 集... す... る... 」... と... う... な... 営... み... で... あ... る... が... 、... 同... 時... に... 優... れ... た... 研... 究... 者... や... 専... 門... 家... と... 政... 党... ・... 政... 治... 家... が... 決... 定... 的... に... 違... つ... の... は... 「... 支... 持... 率... の... 変... 動... に... 耐... え... な... が... ら... 長... 期... 的... な... 視... 点... か... ら... 政... 策... を... 立... 案... し... 、... 合... 意... 形... 成... を... 図... る... こ... と... の... で... き... る... パ... ブ... リ... ッ... ク... な... 存... 在... 」... で... あ... る... 点... だ... 。... この... 両... 側... 面... か... ら... 政... 党... を... 鍛... え... る... こ... と... が... 、... マ... ニ... フェ... ス... ト... の... 作... 成... ・... 検... 証... 過... 程... に... は... か... な... ら... ない... 。... 二... 十... 二... 年... 度... 予... 算... で... は... 戦... 後... は... じ... め... て... 、... 国... 債... 発... 行... 額... が... 税... 収... を... 上... 回... っ... た... 。... こ... れ... は... 一... 過... 性... の... こ... と... で... は... な... く... 、... 平... 成... 元... 年... 以... 降... 一... 貫... し... て... 続... け... ら... れ... て... 来... て... いる... 。

*いずれも 参加費 同人2000円 購読会員 3000円 (お弁当付)
会場 「がんばろう、日本！」国民協議会事務所

◆戸田代表を囲む会 in 大阪 「尾立源幸・参院議員を囲んで」
5月16日(日)16時より 大阪研修センター・十三
会費 1000円

◆戸田代表を囲む会 in 京都 「福山哲郎・参院議員を囲んで」
5月22日(土)18時30分より メルパルク京都
会費 1000円

22年度 第一回総会

第六回大会を受けて、22年度第一回総会を開催します。

5月8日(土) 10時より18時(終了は目処)

会場 「がんばろう、日本！」国民協議会事務所

○問題提起 戸田代表(主権者運動の問題設定と情勢)
福嶋浩彦同人(市民自治の深化の視点から)
藤田憲彦衆院議員(30代議員の視点から)

○討議と報告 同人議員、各読者会

○まとめと行動提起(参院選、統一地方選にむけて)

■問い合わせ 03-5215-1330

「小沢幻想」「労組
民主党を、

「小沢幻想」「労組
民主党を、

な社会関係資本を形成する。こ
れは次期総選挙にむけた最大の
基盤整備にはかならない。
あるいは、そうした有権者と
ともに地域の課題を解決するた
めのローカルマニフェストを市
民参加で作る、本格的なローカ
ルパーティーの登場も重要なた
ち。そこでは少なくとも、道州制か
ら地方分権を語る、ということ
はありえない。市民自治の深
化・集積の結果、道州制を選択
することはあるかもしれない
が。

主権在民・市民自治のファクターから、 参院選を「仕分け」のステップとしよう

来る参院選はこうした方向性
に力を与え、「支持率の変動に耐
えながら長期的な視点から政策
を立案し、合意形成を図ること
のできるパブリックな存在とし
ての政党」を鍛えるための「仕
分け」の舞台として位置づけよ
う。

仕分けのひとつ目は、「政党政

ない。その意味では0.25%削減
は、その「先行者利得」のため
の投資であり、東アジア・エネ
ルギー共同体などにむけた「未
来への投資」と位置づけられる
ものだろう。
さらにはアジアでも今後急速
に進む少子高齢化、それにとも
なる社会保障の構造改革、経済
のグローバル化に対応した(社
会保障にとどまらない)生活保
障の再構築や社会的統合といっ
た課題が急浮上してくる。わが
国がそれに対する「課題先進国」
としての位置取りができるかは、
国内の改革の成否にも大きくか
かわってくる。

次期総選挙がさらに本格的な
政権選択選挙となるためには、
財政の持続可能性とセットで社
会保障、税制、生活保障の体系
的な改革、再構築の方向性を示
すマニフェストは不可欠だ。そ
うでなければ「有権者に対して
はなはだ失礼だ」。これが、有権
者が政党内閣問うべきハードルだ。
また何よりも大切なことは市
民自治の深化・発展であり、決
定過程への市民参加のさらなる

いてきた傾向の帰結にほかなら
ない。日本の財政が破綻するか
どうか、それについてはさまざま
な議論があるだろう。しかし、
税金を上回る国債発行によって
歳出を賄うという財政構造が、
持続可能なものでないことだけ
は確かだ。政府債務があまりに
も大きいため、今増税したとし
ても、財政が安定するまでには
二世代から三世代の時間がかか
るといふ試算もある。このくら
いの長期的スパンに立った責任
性からの合意形成ができるか—
これが次期総選挙のマニフェス
トで、有権者が政党内閣問うべき
ハードルだ。

もちろん財政の持続可能性の
ためには、「稼ぐ」の構造改革も
不可欠である。生産と消費の中
心が新興国に移りつつあるなか、
アジアで稼ぐことは至上命題で
あるが、そのアジアはもはや二
十世紀型発展を後追いするアジ
アではない。低炭素経済・グリ
ーン資本主義をはじめとする、
二十一世紀型資本主義のパラダイ
ムからアプローチすることな
しに、アジアの市場は獲得でき

ペンハーゲン会合（COP15）以降、「中国は途上国である」といって世界からの期待に答えなければ、かえって自己中心的であると見られ、理解が得られないこと、またこれからの世界経済がいわゆるグリーン化、グリーン経済といった新しい基準によって発展していくなか、中国が遅れたものを守っているのは長期的には不利になる、むしろ今は厳しくても早めに自己改革をして、国内の発展も新しい基準に切り替えたほうが、長期的には先進国の仲間入りにとって近道ではないか、という国内改革と国際的な責任・協調を結びつける認識が、この半年の間に出てきているということです。ただし、まだこれは揺れています。

（4月8日。聞き手／戸田政康、石津美知子。タイトル、小見出しとも文責は編集部）

（このインタビュは、4月21日開催の定例講演会「東アジアのなかの中国」への紙上参加としてお願いしたもの。講演会は、唐亮・早稲田大学教授、杜進・拓殖大学教授との討論として行われた。詳細は、六月一日発行の「日本再生」三七三号に掲載予定。）

4月21日開催の定例講演会「東アジアのなかの中国」（写真上）
（写真左）唐亮・早稲田大学教授（左）、杜進・拓殖大学教授（右）



14面から続く

依存」から脱して、持続可能な政権担当能力を獲得するステップに押し上げ、自民党またはそれに替わる、マニフェストで規律化された野党を鍛えるステップを準備するために「捨てるべきもの」を仕分けしよう。

三つ目のキーワードは世代交代。財政が安定するまでには二世代から三世代の時間がかかるという試算もあるなか、持続可能な社会を再構築していくためには、この先三十年間を現役として責任を負う立場、そういう世代に決定権を移していくことが必要だ。選挙になると政党や候補者は、数の多い高齢者のほかに顔を向けがちだが、「若手に託す」時代が来ていることは

三十代市長の相次ぐ誕生でも明らかだ。

早い話、七十を過ぎた労組組織内候補（現職）と三十代の公募候補（女性）、どちらの可能性を見出しますか、という選択でもある。

そして最後に。参議院で民主党が過半数を獲得できなかったときに、①みんなの党がキャスティングボートを握る ②公明党がキャスティングボートを握る ③社民、国民新が政権を振り回す、この三つのうちベターなのはどれか、「最悪」なのはどれか。そういう選択でもある。

そして、より本格的な政権選択選挙を準備していく上で、なによりも重要なのは、「決定過程に参画する責任ある主権者」と

いう社会関係資本を集積していく市民自治の場、その深化・発展である。その主権者運動の持続的発展こそが、パブリックな存在としての政党を生み出し、支え、鍛える。ローカルパーティーにおいても、それが可視化されていくことが求められている。

（前号に引き続き、五月八日開催の「総会」趣旨および問題設定として。）

「がんばろう、日本！」国民協議会 会員になりませんか

同人会員 24000円 購読会員 3500円

賛助会員 50000円（いずれも年間）

郵便振替 00160-9-77459

ゆうちょ銀行（店番号019）当座0077459

「がんばろう、日本！」国民協議会

お問い合わせ 03-5215-1330

ホームページ <http://www.ganbarou-nippon.ne.jp>

